

令和6年春の叙勲伝達式の実施

2024年8月8日、令和6年春の邦人及び外国人叙勲伝達式が総領事公邸において実施され、尾中 弘考氏が旭日単光章、アントニオ・テルオ・カトウ氏が旭日双光章を受章しました。

尾中 弘考氏の功績

尾中氏は、平成3年以降、歴代最長となる計約11年（計12回）にわたりラーモス日伯文化協会会長を務め、ラーモス移住地が所在するサンタ・カタリーナ州フレイロジェリオ市周辺地域を中心に、日本文化、日本的価値の継承及び普及に貢献した。また、移住当初から、農業の成功には日本の心を理解することが重要との考えを持ち、高校在学時に学んだ剣道の指導を熱心に行い、現在も日系・非日系を問わずブラジル全国レベルでその普及に努めている。昭和61年には、同移住地内にブラジル唯一の本格的な剣道場「文武館」を竣工させ、日本式の礼儀、敬意等の発信の拠点となっている。

尾中氏の出身地が「吉野の桜」で知られていたこともあり、約30年前から、ラーモス日伯文化協会会館が所在する土地を「桜公園」とするべく、自身で栽培した桜の苗を植えはじめ、さらに、フレイロジェリオ市内等の主要道路沿いに土地を持つ農家に桜の苗を寄贈し、ラーモス移住地へ続く道に桜を植えることを勧め、地域を日本的な景観をもって美しくする活動に従事してきた。パラナ州クリチバ市とパラナ日伯商工会議所が連携して進めている桜植樹事業に対し、数百本規模の桜の苗の寄贈も行っている。



尾中氏と三井総領事



同氏と御親族ほか、三井総領事

アントニオ・テルオ・カトウ氏の功績

カトウ氏は、パラナ州パラナヴァイ市長として市内の学校で日本的価値の浸透等を通じて教育の質の向上に取り組むと、ブラジル全国の市長から5人のみを選出される「市長・児童賞」を2年連続で受賞し、パラナ州における日系社会の地位向上、親日感の醸成に貢献した。その後、カトウ氏の取り組みが基礎となり、パラナヴァイ市と愛知県豊橋市の間で教育交流が開始されると、同氏はパラナ州議会議員として二度豊橋市を訪問し、同交流の継続に勢いをつけた。

さらに、カトウ氏はパラナ州議会議員として、平成19年に同州議会における「日本人のブラジル移住99年を記念する式典」の開催を他の日系議員と共に提案し、翌年、同100周年の機に皇太子殿下がパラナ州を御訪問された際、日系社会を代表して謁見したほか、平成25

年には、同州議会における同 105 周年記念式典の開催を単独提案して実現を主導した。また、パラナ州議として 3 度にわたり訪日経済ミッションに参加し、両国経済関係の強化にも尽力した。

令和 5 年末までの 2 年間は、パラナヴァイ体育文化協会会長として、コロナ禍後初となる「パラナヴァイ春祭り」を取り仕切り、同市日系社会の活性化、日本文化の継承及び発信に努めた。



カトウ氏と三井総領事



同氏と御親族ほか、総領事

本件照会先：在クリチバ日本国総領事館

電話：+55(41)3322-4919

メール：cgjcuritiba@c1.mofa.go.jp